

和歌山県の将来の医療を考える

「和歌山県地域医療構想」を平成28年5月に策定。患者の病状に応じた医療体制の構築を推進しています。



めざす方向

「県民誰もが住み慣れた地域で安心して適切な医療を受けられる社会」を実現します！

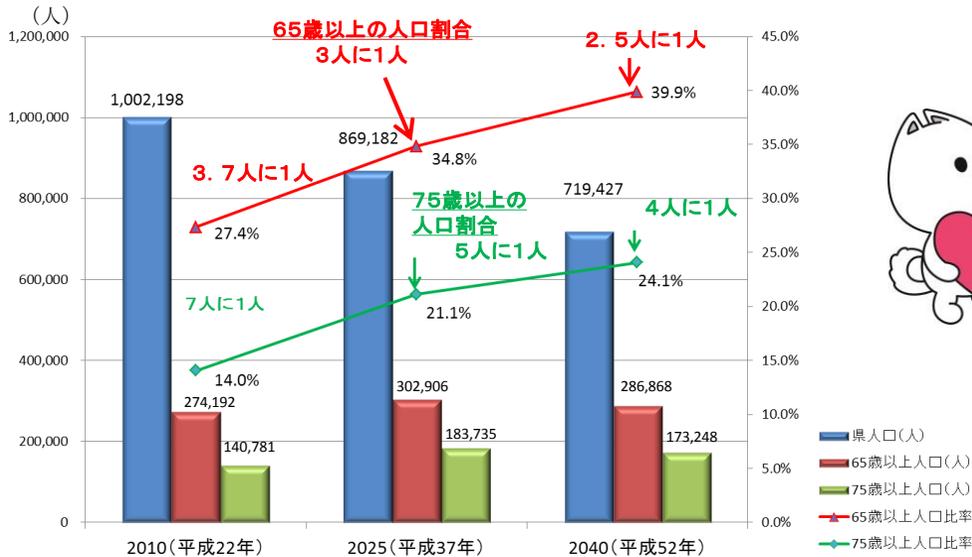
(1) 和歌山県の今後の人口は・・・



(2) 「治す医療」から「治し、支える医療」へ

2025年には・・・ ●総人口は減少 ●一方、高齢者は増加 ●団塊の世代全てが75歳以上に。3人に1人以上が65歳以上に！

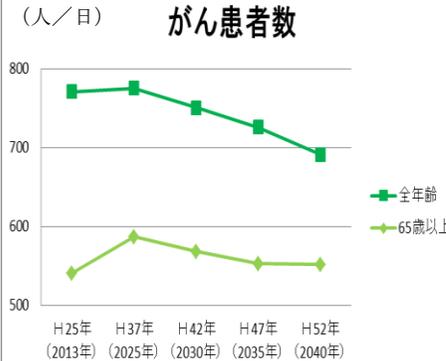
疾病構造の変化に伴って、リハビリなどを提供する回復期のベッドが今後不足することなどが見込まれます。



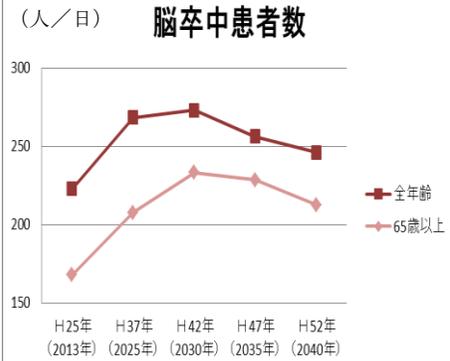
高齢者人口ピークは・・・

★和歌山県では、65歳以上人口は2020年頃に75歳以上人口は2030年頃にそれぞれピークを迎える予定です。

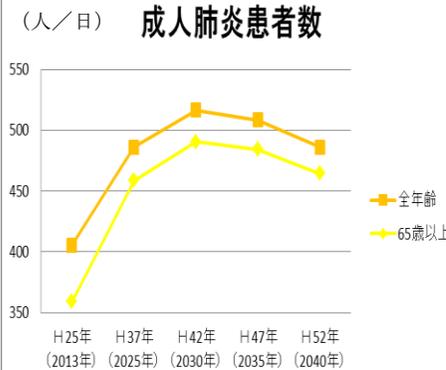
がん患者数



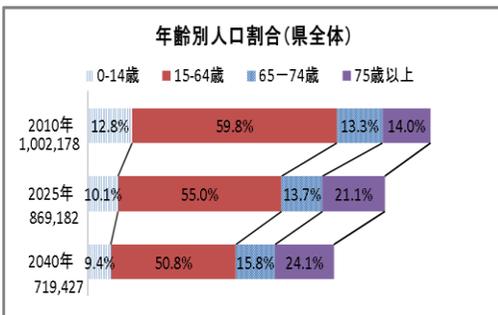
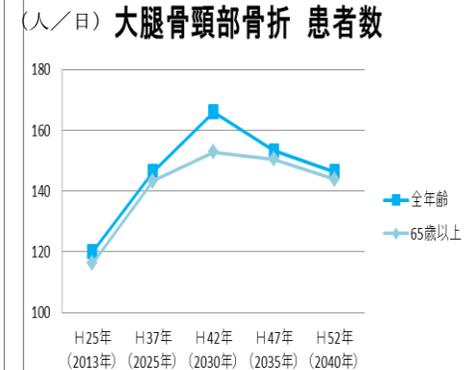
脳卒中患者数



成人肺炎患者数



大腿骨頸部骨折患者数



(出典) 厚生労働省 必要病床数等推計ツールより (備考) 保健医療技術の進歩等は考慮していません

(3) 「地域医療構想」の実現により、患者の病状に応じた切れ目のない質の高い医療体制を構築していきます。

Q1

なぜ、「地域医療構想」を策定したのですか？

A1

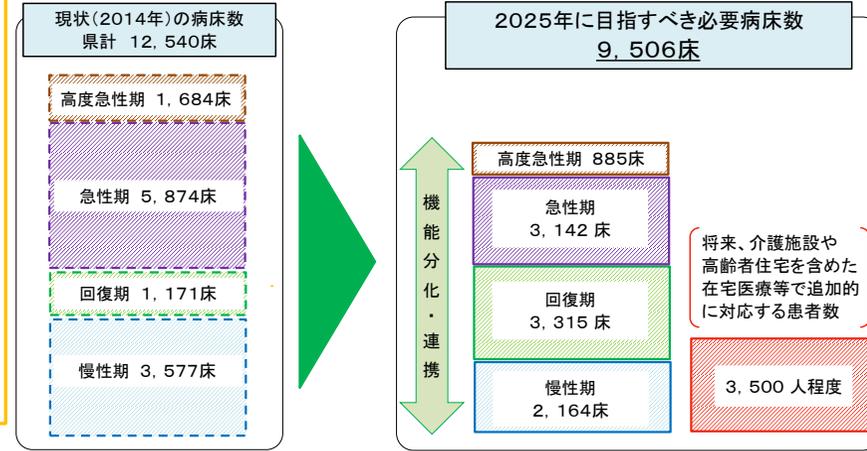
和歌山県においても高齢化が着実に進んでいます。2025年（平成37年）には、県民の3人に1人が65歳以上の高齢者になると見込まれています。

このような中、将来、県民の皆さんが必要とする医療サービスを適切に提供できるようにしていかなければなりません。

そこで、2025年の入院医療等の必要量を推計し、患者の病状に応じた将来の医療提供体制を構築していくため、和歌山県が策定したものです。



将来において目指すべき姿のイメージ



Q2

安心して医療を受けられるように取り組んでいくことは？

A2

和歌山県地域医療構想においては、県全体や県内7地域における2025年に向けた取組みの方向性を示しています。関係者の皆さんの協力を得ながら、それぞれの地域においてバランスの取れた最適な病床機能の確保や、在宅医療の充実、医療従事者の確保などに取り組んでいきます。また、健康長寿の取組みについても併せて推進していきます。

◆県民の皆さんへのお願い◆

(1) 医療機関の役割を考えて受診しましょう！

診療所は、病気・けがの初期の治療や長い間薬を飲んだりする必要のある病気の治療、健康管理などを行います。病院は、高度な技術や機械が必要な治療や、リハビリなどを中心とした治療などを行います。

各医療機関の機能や役割を理解し、まずはかかりつけ医に相談して自分の症状に合った医療機関を受診しましょう。

(※) 県内各医療機関の機能等は、下記（和歌山県ホームページ）から確認できます。
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050100/byosyokinou.html>

(2) かかりつけ医を持ちましょう！

「かかりつけ医」とは、本人や家族の身体の状態を把握し、日常の健康管理や体調の変化などを気軽に相談できる身近な主治医のことです。日頃から何でも相談できる「かかりつけ医」を持ちましょう。

病床機能等の主な役割分担のイメージ

救急医療、先進医療、手術など

リハビリ、在宅復帰に向けた医療、長期療養など

高度急性期・急性期を担う病院

回復期・慢性期を担う病院

